



目標指標 ～つなげよう、正しい食生活の習慣づけ～

子どものうちから正しい食習慣を身につけ、次の世代に伝えていきましょう。

目標指標	重点項目	平成29年度 現状値	平成34年度 目標値
野菜やきのこ、海藻類を使った料理を1日に小鉢5皿～6皿程度は食べる人を増やす	市民 (週5日以上)	32.7%	現状より増やす
塩分を控える人を増やす	市民 (週5日以上)	36.5%	60%以上
朝食を毎日食べる子どもを増やす (1歳6か月、3歳6か月の現状値は、平成28(2016)年度の値)	1歳6か月児	90.3%	100%
	3歳6か月児	96.4%	
	小学校3年生	94.0%	
	小学校6年生	90.6%	
	中学校2年生	89.9%	
朝食を毎日食べる人を増やす	20歳代	40.0%	85%以上
	30歳代	62.8%	
食育に関心のある人を増やす(食育が「重要」「どちらかといえば重要」と思う人)	小・中学生の保護者	95.6%	100%
栄養のバランスを考えて食べる人を増やす(主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の人を増やす)	市民	参考：国 57.7%	70%以上
成人男性肥満者(BMI 25以上)を減らす	男性	25.9%	21%
食育関係者研修会への参加者数を増やす	食育関係者	313人	現状より増やす
食文化の継承に関心を持つ(「関心がある」「少し関心がある」)人を増やす	小・中学生の保護者	76.5%	85.5%以上
食育に関する体験活動をする子どもを増やす(料理教室、野菜づくり、稚魚の放流などの体験活動)	小学校3年生	68.2%	100%に近づける
	小学校6年生	72.3%	
	中学校2年生	64.2%	
自分で簡単な食事を作ることができる子どもを増やす	小学校3年生	59.3%	100%に近づける
	小学校6年生	89.0%	
	中学校2年生	86.2%	
「朝食」又は「夕食」を家族と一緒に食べる「共食」の回数を増やす	市民	参考：県 週8.9回	週11回以上
地域等で共食したいと思う人が共食する割合を増やす	市民	参考：国 64.6%	70%以上
給食における地場産物を利用する割合を増やす	学校全域	31.3%	35%
廿日市市の特産物を知っている人を増やす	小・中学生の保護者	74.3%	現状より増やす



概要版

平成30(2018)～2022年度

第2次廿日市市食育推進計画

基本理念

食でつながる 笑顔いっぱい はつかいち

～心身の健康を守り、豊かな人間性を育む～



計画の趣旨

本市では食育基本法に基づき、平成24(2012)年3月に「廿日市市食育推進計画」を策定。市民が健全な食生活を実践し、健やかな心身を育むことができるよう、食育の推進を図ってきました。

前期計画期間中の取組などをふまえて、今後廿日市市の食育を推進するため「第2次廿日市市食育推進計画」を策定し、すすめるべき食育の方向性と目標を明確にしました。



健康はつかいち21
イメージキャラクター
ハツラツ はっちゃん
(宮島工業高等学校生デザイン)

【問い合わせ先】 廿日市市 福祉保健部 健康推進課
〒738-8512 廿日市市新宮一丁目13番1号 廿日市市保健センター(あいプラザ内)
TEL : (0829)20-1610 FAX : (0829)20-1611

平成30(2018)年3月
廿日市市

現状と課題

少子高齢化などによる世帯構造の変化、社会環境の変化、家庭生活の多様化

・エネルギーや食塩等の過剰摂取
・野菜の摂取不足等の栄養の偏り
・朝食欠食等の食習慣の乱れ

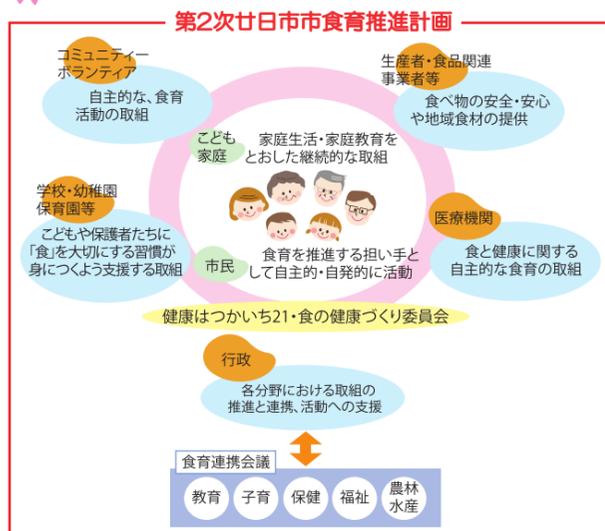
・こどもの肥満や痩身傾向
・生活習慣病の増加や高齢者の低栄養傾向など

施策の体系 ~食でつながる 笑顔いっぱい はつかいち~

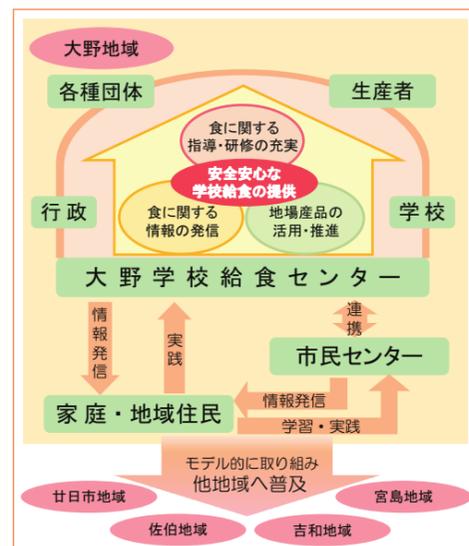
食育を推進する5つの基本目標の達成に向け、市民や各団体等と行政が協働し、ライフステージの視点も取り入れながら、食育に取り組んでいきます。

基本目標	基本方針	施策
は ハツラツとした未来へつながる	健康寿命の延伸につながる食育の推進	→ 食育に関する啓発の推進
		→ 基本的な生活習慣の定着と望ましい食習慣や知識の習得
		→ 食を通じた生活習慣病予防と健康づくりのための食生活の実践
		→ 食育を推進する体制づくり
つ 次の世代に食文化をつなげる	食文化の継承活動の推進	→ 食文化への理解を深める食育の推進
か 感謝の気持ちでいのちがにつながる	食の循環や環境を意識した食育の推進	→ 生産から消費までの食の循環を意識した食育の推進
い いっしょに食を楽しみ人と人がつながる	共食の推進	→ 食を通じたコミュニケーションの充実
ち 地産地消で地域がにつながる	農林水産業との連携による食育の推進	→ 地産地消の推進

食育推進体制



最も身近な食育を実践する場である家庭や個人を中心に地域や食に係る関係機関や団体、行政などがそれぞれの役割を果たすとともに、相互に連携・協力しながら食育を推進していくことが必要です。



食育の拠点

平成30(2018)年度に開設される大野学校給食センターを食育の拠点とし、地域の市民センターなどと連携することで広く市民の食育の実践につなげます。

ライフステージ別の主な取組

基本目標	乳幼児期	児童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期
は ハツラツとした未来へつながる	朝食の必要性を理解し、朝食を毎日食べます					
	栄養バランスについて理解し、毎日しっかり野菜を食べます 					
つ 次の世代に食文化をつなげる	うす味を心がけます 					
	健康診査や健康相談などを利用します 					
か 感謝の気持ちでいのちがにつながる	行事食や郷土食の食事体験や調理体験などに声をかけあい、積極的に参加します					
	行事食や郷土食を学びます 		行事食や郷土食の作り方などを伝えます 			
い いっしょに食を楽しみ人と人がつながる	食品の廃棄をできるだけなくすよう努めます 					
	料理教室などの体験教室に積極的に参加します 			子どもと一緒に買い物をして、食材選びを体験する場を提供します 		
ち 地産地消で地域がにつながる	家族や仲間と一緒に食べます 					
	料理教室や交流事業に参加し、一緒に食事をする機会を作ります 					
ち 地産地消で地域がにつながる	地場産物を意識し、地産地消を心がけます 					
	地場産物を意識し、地産地消を心がけます 					

取組事例



健康・栄養相談、健康教室の様子



朝食コンテスト《最優秀作品》(応募数 215点)



保育園での様子



子どもの料理教室の様子



やさい 831の日を知っていますか?

生活習慣病予防や改善のために、野菜を十分とることは大切です。廿日市市では、やさい 831の日を「やさいの日」とし、野菜を食べることの大切さを知り、十分に食べる契機となるよう普及啓発していきます。

